

見直せ！ごみの処理

昨年4月から、旭市ではごみの出し方が大きく変わりました。それまでの6種類の指定ごみ袋(可燃ごみ・不燃ごみ・カン・ビン・ペットボトル・プラスチック製容器包装類)はなくなり、普通ごみと資源ごみの2種類の袋での分別に変更されました。

これは、銚子市に広域ごみ処理施設「東総地区クリーンセンター」が完成し、昨年4月1日から稼働を開始したことによるもので、旭市・銚子市・匝瑳市の3市から出たごみを一緒に処分しています。これに伴い、旭市クリーンセンターは旭中継施設に生まれ変わり、現在、粗大ごみや事業系ごみの受け入れを担っています。

地球温暖化が深刻化し、その影響が身近に迫る中、私たち一人一人に、ごみを減らすために「今できること」への取り組みが求められています。一昨年7月にはレジ袋の有料化が始まり、エコバッグを持つ習慣も身に付いてきました。

正しくごみを分別できていますか。ごみを減らすために私たちができることは何か、改めて考えてみませんか。

マナーを守って正しく分別



普段、私たちが出したごみは、市が委託した2社が収集し、銚子市の東総地区クリーンセンターに運ばれます。



分別を守らないと車が故障することも

トソーメンテナンス(有)
細根 正男さん

スプレー缶やライターなど、危険物を普通ごみに入れないでほしいです。もし入っていた場合、収集車の中で発火し、故障してしまうこともあります。修理できないときは新たに購入しなければならず、数百万円かかってしまいます。また、納車まで時間もかかるので、その間は少ない台数で回らなければならず、収集に時間がかかってしまいます。

作業員が作業しやすいごみ出しに協力を

(有)カナヤマ
さとしひろ
金山 理宏さん



割れたガラスや皿などは作業員がけがをする場合もあるので、新聞紙などに包んで出すことを徹底してほしいですね。また、ごみ袋があまりにも重いと車に積むのが大変なので、片手で持てるぐらいの重さを目安に出してください。

私たちも、皆さんが利用するゴミステーションをきれいに保ちたいと思って仕事をしています。直接会うことはあまりないかもしれませんが、ごみを出すときに、作業員が作業しやすいように出すことを意識してもらえると嬉しいです。

ごみ収集委託会社に聞きました

正しく出されていないごみは収集されません

分別ができていないものや、指定袋に入っていないものは収集されません。その場合はごみ

ごみ収集の1日の流れ

ごみ収集車は午前8時から各ゴミステーションを回り始め、ごみがいっぱいになったら銚子市の東総地区クリーンセンターまで運びます。クリーンセンターへの搬入は午後4時までで、1日に約5往復します。

自分のごみ出しに責任を持って



袋区長 田村 芳信さん(左)
副区長 堀井 三郎さん(右)

ゴミステーションに放置されたごみに困っています。ごみを出した人が回収に現れず、そのままいつまでも放置されてしまうので、月に1回ほど、ボランティアで分別し直しています。

ごみ問題は住民の協力なくしては解決できません。一人一人がマナーをしっかりとってほしいですね。

を出した人が持ち帰り、正しく出し直さなくてはいけません。しかし、出した人が現れずにご

みが放置され、ゴミステーションの管理者が分別するなど、大きな負担になっています。



ごみはこうして処理される

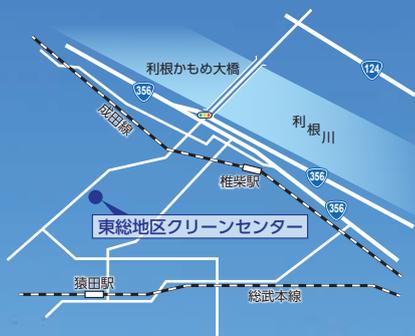
ゴミステーションや

旭中継施設に出されたごみは、

東総地区クリーンセンターに搬入されます。

ここでは、皆さんが出したごみが

どのように処理されているかを追いました。



東総地区クリーンセンター
 銚子市野尻町1678-1
 ☎0479-30-2311

東総地区クリーンセンターのここがすごい

Point 1 高効率の発電施設でもあります

ごみを溶かすときに発生するガスを燃焼し、そこでできる蒸気を使って発電しています。施設を稼働する全ての電力が賄われているだけでなく、余剰電力を販売し、その収入が施設運営費の一部に充てられています。

Point 2 溶かしたごみを再資源化

普通ごみを溶かした溶融物から、道路舗装材料に使用される「スラグ」や、建設機械の重りなどに使用される「メタル」を作り、再生資源として有効利用しています。

東総地区クリーンセンター

旭市・銚子市・匝瑳市の3市で構成する東総地区広域市町村圏事務組合が事業主体の、最新設備や機能を備えたごみ処理施設で、令和3年4月に稼働が始まりました。

施設を運営するのは、組合から委託を受けている株式会社東総クリーンシステムです。従業員の8割を地元から採用している会社なので、地域の雇用促進にも貢献しています。

搬入されたごみの処理

普通ごみ

普通ごみはいったんごみピット（ストックする場所）に投入されます。ここで効率よく焼却できるようにかき混ぜて、クレーンで溶融炉に入れます。最大1,800度という高温で溶かされたごみの溶融物は、資源として再利用されます。最後に残った燃えかす（飛灰）



リサイクル用に成型された缶



収集したごみをごみピットに投入

東総地区クリーンセンター 職員インタビュー

施設の担当者と運営者に話を聞きました。
ここでも共通することは「ごみを分別して
出すことがとても重要」ということでした。



東総地区広域市町村圏事務
組合環境施設課
課長 宮内 雄治さん

分別することは節税

ペットボトルや缶は資源として再利用されます。混入しているキャップやラベル、そのほかの異物は手作業で取り除かれます。多くの労力が必要となり、多額の人件費がかかります。これらにかかる費用の一部は皆さんの税金です。一人一人がごみの分別を徹底することで、大幅な作業の削減と節税につながります。



(株)東総クリーンシステム
工場長 今井 崇さん

分別で施設の健全な運営

普通ごみにガスの残ったスプレー缶やリチウムイオン電池などが混ざっていると、ごみピット内での火災の発生や設備の損傷の原因になります。また、現場作業員のけがなどにもつながるとも深刻な問題です。皆さんの分別に対する意識や行為が、施設の健全な運営と作業員の安全を守ることに、とても大切であることを知っていただければと思います。

施設見学ができます

施設の機能やごみ処理の仕方などについてくわしい説明を受けながら、施設内を見学することができます。ごみクレーンの操作現場などを間近で見れたり、〇×クイズでごみの問題を楽しく学んだりできるので、子どもたちにも好評です。所要時間は90分程度で費用は無料、平日午前の部と午後の部があります。くわしくは(株)東総クリーンシステムのホームページで確認してください。



説明を受けながら見学する児童

施設見学者に聞く

ごみのリアルに迫ることができます



鶴巻小
教諭 池永 周平さん

コースに沿った丁寧な説明だけでなく、映像や資料を使ったクイズを交えたりと、子どもたちが最後まで飽きることなく見学できる工夫がされています。施設見学最大の魅力は、ごみを処理する工程が分かるだけでなく、リサイクルの大切さなど、ごみ問題に対する意識が変わることです。

適切なリサイクルのため

搬入された缶やペットボトルに混ざっているキャップやラベル、そのほかの異物は、従業員

は、薬剤を混ぜて固めることで飛散防止処理を行い、最終処分場へ搬出します。
資源ごみ
缶やペットボトルは、キャップやラベルなどの混入物を取り除いて圧縮します。ビンや金属、紙類などは専用のヤードにストックします。その後、それぞれリサイクル業者に引き渡されます。

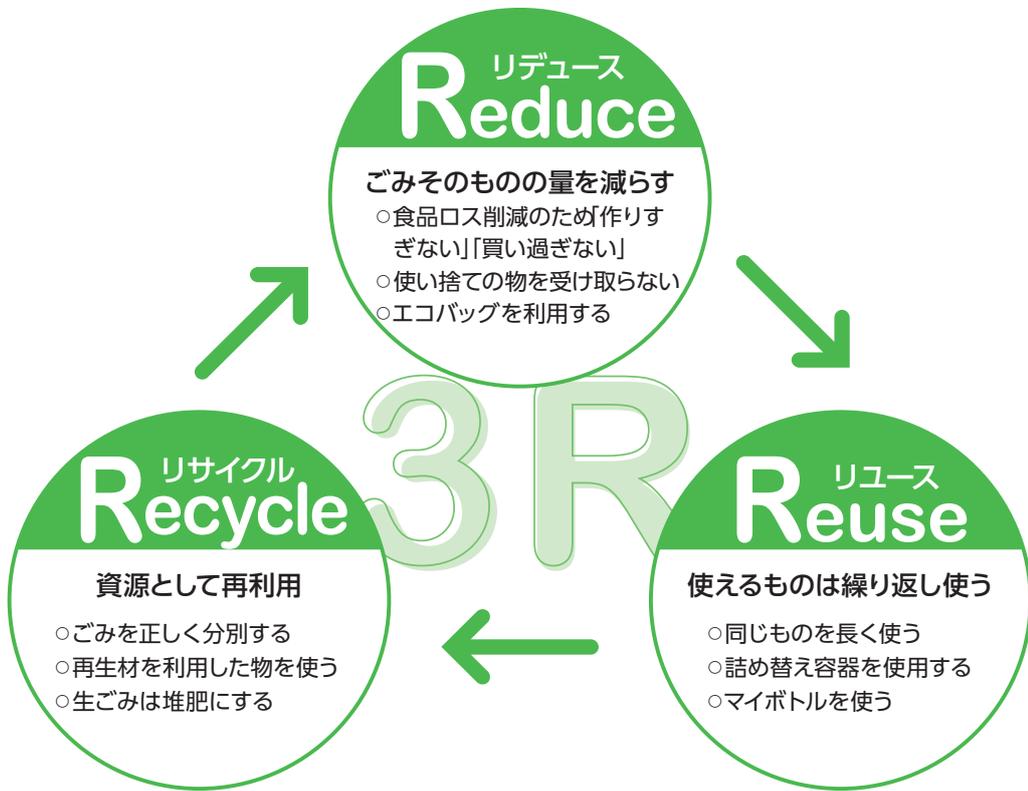
の手作業で取り除かれます。効率的なリサイクルをする上で欠かせない業務ですが、危険を伴う過酷な作業です。



手作業で行う選別



ごみを減らすために私たちができること



限りある資源を有効活用することで
環境への負荷を減らし、
地球に優しい資源循環型社会を実現しましょう。

3Rを知っていますか

3Rとは、リデュース、リユース、リサイクルの3つのRの頭文字をとった言葉です。

リサイクルという言葉は身近なものとして浸透していますが、普段の生活で、できるだけ使われる資源を節約して、ごみの排出量を減らし生活環境を守っていくことが大切です。そのためには、資源を節約してごみそのものを減らすリデュースと、物を繰り返し大切に使うリユースの取り組みにも力を入れていく必要があります。

食品ロスを減らす

食品ロスとは、食べ残しや期限切れ、食材の過剰除去など、

食べられるのに廃棄されてしまっている食品のことです。

食品ロスの削減ポイント

食品ロスの削減には、一人一

- 人が普段の生活の中で少しずつ気を付けていくことが大切です。どのような場面で実践できるのか、ぜひ考えてみてください。
- 冷蔵庫や野菜室は7割以下にして冷却効果と見やすさUP
- 食材を「買い過ぎず」「使い切る」「食べ切る」
- 残った食材は別の料理に活用
- 賞味期限はおいしい目安。食べられるかは個別に判断する

エスディーゼーズ
**SDGs の実践で
ごみの減量を実現**

SDGsとは、貧困や格差、教育、気候変動などさまざまな問題を解決し、全ての人が幸せに暮らせる世界を作るために採択された世界共通の目標です。SDGsには、ごみの分別や地域の清掃活動への参加などの「住み続けられるまちづくりを」や、衣料・食料・エネルギーなどさまざまな分野での「つくる責任・つかう責任」の解決など、ごみの減量化や資源化との関わりが深いものがあります。



クイズにチャレンジ!

これであなたも ごみ出しのエキスパート



Q1 ペットボトル
どう出す?



- ① 全て普通ごみに出す
- ② 洗ってから、全て資源ごみ (ペットボトル) に出す
- ③ 本体は洗って資源ごみ (ペットボトル) に出し、ラベルとキャップは外して普通ごみに出す



Q2 割れた皿
どう出す?



- ① 紙などに包んで資源ごみ (金属) に出し、袋に「ガラス」と表記する
- ② 紙などに包んで普通ごみに出し、袋に「ガラス」と表記する
- ③ そのまま資源ごみ (金属) に出す



Q3 使い捨てカイロは
何ごみ?



- ① 普通ごみ
- ② 資源ごみ (金属)
- ③ 市内に設置されている回収ボックスに出す



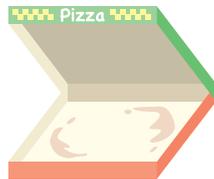
Q4 鍋やフライパン
どの袋で出す?



- ① 資源ごみ (金属)
- ② 普通ごみ
- ③ 旧式の不燃ごみ



Q5 ピザの箱は
何ごみ?



- ① 普通ごみ
- ② 雑がみ
- ③ 段ボール



Q6 中身が入ったスプレー缶
どうやって捨てる?



- ① そのまま普通ごみへ
- ② 中身を使い切り、穴を開けずに資源ごみ (金属) へ
- ③ 中身を使い切り、穴を開けて資源ごみ (金属) へ



Q7 乾電池
どうやって出す?



- ① 資源ごみ (金属)
- ② 普通ごみ
- ③ 市内に設置されている回収ボックスに出す



Q8 自転車どこに
出す?



- ① 旭中継施設か 東総地区クリーンセンターに搬入
- ② 普通ごみの袋を自転車に貼って、近くのゴミステーションへ
- ③ 資源ごみの袋を自転車に貼って、近くのゴミステーションへ

答えは次のページ



Q 旧式のプラスチック製容器の袋に、プラスチック製容器以外のごみは入れられますか。

A 入れることはできません。重いごみに耐えられない構造になっているので、プラスチック製容器のみ入れてください。

Q 不燃ごみの袋は使用できません。資源ごみ袋に金属のみを入れて出してください。

A 不燃ごみの袋は使用できません。資源ごみ袋に金属のみを入れて出してください。

Q 旧式の不燃ごみの袋は何を入れますか。

A 普通ごみを入れられます。鍋やフライパンなどの金属ごみを出したいです。旧式の不燃ごみの袋に入れてもいいです。

Q 旧式のごみ袋が余っています。いつまで使えますか。

A 期限なく使用できます。旧式の不燃ごみの袋は何を入れますか。

Q 旧式のごみ袋が余っています。いつまで使えますか。

A 期限なく使用できます。旧式の不燃ごみの袋は何を入れますか。

質問

よくある
旧式のごみ袋
正しく使えていますか?



A1

答え：③

ラベルとキャップはプラスチック製なので、普通ごみとして出しましょう。



A2

答え：②

そのまま袋に入れてしまうと、作業員がけがをする恐れがあります。紙などに包んで普通ごみに出し、袋に「ガラス」と表記しましょう。



A3

答え：①

使い捨てカイロは普通ごみとして出しましょう。



A4

答え：①

鍋やフライパンなどは金属です。旧式の可燃ごみの袋は普通ごみの袋と同じ扱いのため、入れることができません。



A5

答え：①

ピザの箱など汚れた紙は資源化できません。普通ごみとして出しましょう。



A6

答え：②

中身が入ったままだと、火災の原因になり危険です。必ず使い切って出しましょう。また、危ないので穴を開けずに出しましょう。



A7

答え：③

電池類や蛍光灯、ライターなどは有害ごみなので、ゴミステーションに出せません。回収ボックスに出しましょう。

設置場所／市役所、海上庁舎、飯岡福祉センター、ひかた市民センター、市民会館、海上公民館、いよいよおかユートピアセンター



A8

答え：①

粗大ごみはゴミステーションに出せません。旭中継施設か東総地区クリーンセンターに直接持ち込みましょう。重さで料金が決まるので、指定ごみ袋は不要です。

手数料／10kgごとに100円(事業ごみは200円)

営業時間／月～土曜日
午前8時30分～正午、午後1時～4時
※年末年始を除く。



まちで 海で ごみ拾いを頑張っている人がいます

ごみのないきれいな旭をつくろう

まちにポイ捨てされたごみや、砂浜に流れ着いた漂流ごみ。そんなごみを拾い、きれいな旭市を守ってくれるボランティアの皆さんを紹介します。



旭の海をいつまでもきれいに



旭ビーチクリーンクラブ
伊東 由莉佳さん
(旭市出身・市外在住)



旭ビーチクリーンクラブ
Instagram

毎週木曜日の昼に、矢指ヶ浦海岸でビーチクリーンを行っています。Instagramで参加者を募集し、誰でも気軽に参加できるようにしています。

砂浜には漂流ごみだけでなく、不法投棄されたごみも見かけます。こうしたごみを見かけると悲しくなることもあります。負の感情を捨てて楽しく活動することを心がけています。

生まれ育った旭が大好きなので、きれいな海を未来に残すために、これからも活動を続けていきたいです。

ポイ捨てのないまちを目指して

年に数回、地域の有志でごみ拾いをしています。

捨てられているごみを見ると、どうして平気でごみを捨てられるのだろうかと考えてしまいます。中には竹やぶの奥深くに投げ込まれたものもあります。拾いに行けないのでずっと放置されたままになってしまい歯がゆいです。

ごみ拾いをして、まちがきれいになるのは達成感がありますが、ポイ捨てがなくなることが一番うれしいです。ごみは必ず持ち帰って欲しいですね。



富浦環境保全会
加瀬 幸夫さん
(仁玉)

取材を終えて

皆さんはこれまで、ごみを出すときに「分別するのが面倒くさい」「ちょっとくらい守らなくても」などと思ったことはありませんか。

今回の取材を通して、私たちが普段の生活で出すごみを処分するために、たくさんの人たちが危険と隣り合わせの過酷な環境で作業に取り組んでいることが分かりました。

私たちがきちんとごみを分別することで、リサイクル量が増えて燃やすごみが減り、地球環境を守ることができそうです。また人件費や設備の修繕費などに要する税金も節約できます。

私たちが出したごみを処理してくれている人たちに、普段はなかなか会うことはありません。しかし、ごみを正しく分別し、正しく出すことで、その人たちに感謝の思いを伝えることができます。

ごみの行方や地球の未来を想像し、ごみの分別や出し方、普段の買い物仕方などを、いま一度見直してみませんか。

